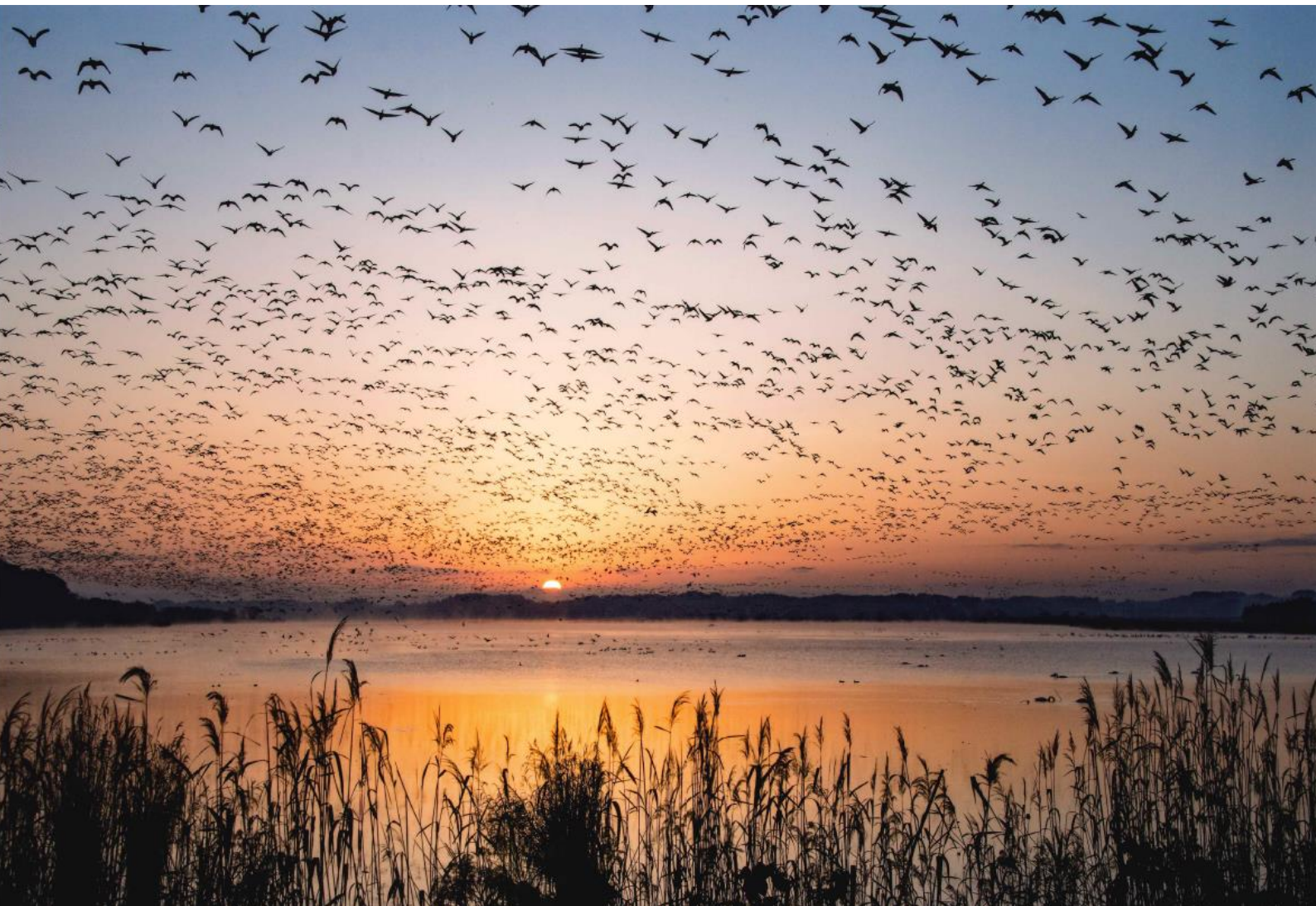


第31回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト 入賞作品決定



最優秀賞（宮城県知事賞）「昇陽の刻」森谷 勇 宮城県塩竈市

展示スケジュール

期間	会場	展示内容
2/1～3/31	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	全作品
5/1～5/27	登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	入賞作品
6/1～6/29	登米市役所1階ロビー	入賞作品
7/1～7/28	栗原市役所1階ロビー	入賞作品
8/1～8/31	JRくりこま高原駅オアシスセンター	入賞作品

第31回の今回、県内外から多数の応募があり、日本写真家協会の井村淳氏が厳正な審査を行った結果、20点の入賞作品が決まりました。応募全作品は、当センターで2月1日よりご覧頂けますので、是非ご来館下さい。また、入賞作品を左記の各施設に巡回展示いたします。

自然体験講座で伊豆沼と志津川へ

今年度最後となる「伊豆沼・内沼自然体験講座」を1月8日に実施しました。

伊豆沼での早朝の「ガンの飛び立ち観察」では、一斉に飛立ったマガンに多くの歓声が上がったほか、朝食後に訪れた南三陸町「海のビジターセンター」では、最後にふさわしい多くのコクガンが観察でき、参加者の皆さんにも満足して頂けたようです。



伊豆沼にて



コクガン

志津川にて

滝川高校、多賀城高校のみなさんが伊豆沼で環境学習



北海道滝川高等学校と宮城県多賀城高等学校の皆さんが、1月6日に伊豆沼において環境学習を行いました。早朝、伊豆沼でマガンの飛び立ちを観察した後は、当財団の伊豆沼・内沼での保全活動の説明や貴重な湿生植物の保護と移植、越冬中の生物の観察を行いました。かつて平野の湿地には、水域、湿原、湖畔林といった多様な環境が存在し、それぞれの環境に適応した生き物が住んでました。

伊豆沼・内沼は、平野に残された数少ない湿地帯であり、参加した皆さんには自然環境保全の重要性についてご理解頂けたことと思います。



第15回 伊豆沼・内沼研究集会のご案内

伊豆沼・内沼研究集会を下記の日程で開催します。ガンカモ類の飛来地として知られる伊豆沼・内沼は、地域住民、行政、研究者などが一体となり、環境保全や環境教育などの活動が行われており、研究集会は、伊豆沼・内沼で研究活動を行っている方々に、日頃の成果を発表していただく場となっています。

なお、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、発表者のみ下記の会場にて発表を行って頂く予定です。また、発表者以外の参加者はライブ配信による視聴とチャットによる質疑でご参加頂けます。何卒ご理解の上、ご参加頂きます様、宜しくお願い致します。

開催日時：令和4年2月5日(土) 13時30分～17時00分

開催場所：宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター（1階研修室）

発表の視聴はYouTubeによるライブ配信で実施します。

※ライブ配信のURLは、開催の一週間前までに当財団のHPに掲載



伊豆沼・内沼生き物図鑑（ゴマダラチョウの越冬）



ゴマダラチョウは、国蝶であるオオムラサキの仲間です。習性や姿かたちもオオムラサキとよく似ており、両種が同じ林に混棲する姿も多く見られます。

これらは冬の間、食樹であるエノキの根元の落ち葉で越冬します。好みの食樹や落ち葉があるようで、1か所にたくさんの幼虫がかたまっている場合もあり、好みの特徴はよく分かっていません。

かつて里山では、ゴマダラチョウやオオムラサキは多く生息していましたが、里山が経済的価値を失い、雑木林が管理されず放棄された結果、数を減らしてしまいました。

そんな両種ですが、伊豆沼・内沼周辺にも多く生息しています。これは湖畔林の管理が行き届き、ゴマダラチョウやオオムラサキの好む樹液の出るヤナギ林が存在するためです。水鳥で有名な伊豆沼・内沼ですが、このような里山の生き物も大事にしていきたいものです。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2

宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217

ホームページ:<http://izunuma.org/>

E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

